

ご挨拶 — 将来活躍する力を生徒たちがつけるために —

大学受験グノーブル 代表：中山 伸幸（英語担当）

本日はお忙しい中、足をお運びいただき、誠にありがとうございます。

グノーブル発足からお陰様で2年あまりが過ぎました。1期生、2期生が高校3年生だったときには英語のみの指導でしたが、来春受験を迎える今の受験学年は、英語に加え、国語、数学の指導もしています。「友達に聞いて英語以外にもグノーブルで受講してやっぱりよかった」、「一人ひとりを丁寧に見てくれるし、先生に熱意があるのでやる気がわく」、「演習をしてすぐに解説を受けられるので理解が深まる」など、国語、数学を受講している受験生からも嬉しい声が寄せられています。

学習環境に関しては、初夏に、新宿駅により近いビルを借りて教室を増設し、出来る限り自習室を確保できるように努めています。また、それに伴い受付・職員室も移転しました。今後も、お客様たちが安心して、意欲を持って学べる環境を整えるべく鋭意取り組んで参ります。

◆高等教育を受ける土台

私たちグノーブル職員は、生徒たちの勉強面での成長に責任を持って携わっています。詰め込みで生徒たちの可能性を摘み取ったり、単にテクニックで合格点を取ろうとする指導を行ったりすることは出来る限り慎むべきだと考えています。生徒たちが力強く大学受験を乗り越え、その先の夢に向かって行ける土台作りに関わっていく決意で日々の指導に向かっています。

◇過去10年の東大英語第1問(要約問題)◇

私たちが心掛けている指導の一部を、東大の入試問題、英語第1問を例に取りながら説明してみます。

第1問は伝統的に要約問題です。ほぼ200~300語あまりの英文を読み、短い場合は30~40字、長くて100~120字の日本語で内容をまとめることが求められます。

この設問では、学問の土台のひとつ＝「正しく情報を伝達する力」が問われていると考えられます。

文章の要旨を正しく把握し、読み取ったことを第三者に伝える「正確な伝言ゲーム」は確かに学問の基礎です。

知識や教養が不足していると誤解につながり、素直に耳をすます気持ちがなければ曲解することになります。内容を第三者に正しく伝える文章力を備えている必要もあります。「正確な伝言ゲーム」ができる能力を持つことは、知識人にとっては必要最低条件です。この土台が備わっていてこそ、大学進学後にもより知識を増やし、教養を深められ、多様な人間関係も形成できます。こうして自分を豊かにできれば、独創性発揮の可能性も高ま

年	本文の語数 (英語)	要約文の字数 (日本語)	テーマ
2008	265	70~80	道徳判断に影響を受ける、人の顔つきの評価
2007	281	80~100	文学作品の意味を決定する要素
2006	243	65~75	民主主義の成立条件と現実
2005	217	60~70	トップアスリートに必要な体の動きと意識
2004	271	60~70	専門家が見せる並外れた記憶力の理由
2003	298	60~70	言語の消滅と言語の多様化
2002	276	40~50	日本のニュース番組におけるアシスタントの役割
2001	195	30~40	何でもない日用品に垣間見える不朽の価値
2000	209	40~50	自らの行為を対象化し分析するという人間の特質
1999	321	100~120	庶民を歴史作成や歴史解釈に参画させるオーラルヒストリー

り、社会により大きな貢献ができることにもつながります。東大はそのような学生を求めて出題をしていると考えられます。

◆グノーブルの取り組み

多くの受験生にとって、英文を要約するこの問題はかなりの難問です。ありふれたテーマが扱われることはありませんから、既に持っている知識で適当にまとめることは不可能です。学術論文のように形式が決まっている文が出ることもありませんから、機械的に仕上げることもできません。その上、使える時間はせいぜい15分です。

グノーブルでは、要約問題はどの大学を受験するにも大切な技量を養えるとの認識に立ち、受験学年では、通常授業・季節講習を通して、毎回の授業内で要約問題の「演習→添削→解説」を行います。生徒たちにとっては、この問題は単に知識の有無を問われる設問と違って意欲をそそられるようで、どのクラスでも生徒たちの真剣な姿が見られます。

私たち自身がその場で答案を添削し、生徒たちに返却した直後に解説を行います。今取り組んだばかりの問題ですから、それだけに学習効果が上がると私たちは考えています。

語句の意味・成り立ち・用法や文の構造はもちろん、パラグラフの特徴、論理展開の目印になる表現、扱われているテーマの背景などにも触れていきます。添削を踏まえて、生徒たちのよく出来ていた箇所や、今後気をつけるべき事柄にも言及します。

次は授業後の復習です。発音のきれいなネイティブナレーターによる音声教材ファイルは、毎回グノーブルのWebサイトからダウンロードできます。生徒たちは、しっかり理解した英文と音声教材を利用して、耳を鍛えて音読をしながら、頭の中に英語回路を定着させていきます。

◆全体像を見抜く眼

このような毎回の演習を積み重ねた上で、私たちは、的確に要約をするのに必要なもうひとつの力について生徒たちに説明します。それは、全体を踏まえて要旨を捉える力です。

要約対象になる英文には、全体と細部が有機的につながりを持ったいい英文が選ばれていますが、その姿を十全に把握するのは容易ではありません。そのやり方について、昨秋、「アハ！体験」を利用して説明してみました。

「アハ！体験」とは、瞬時に新しいことを思いついたり、それまで分からなかったことがパッと分かったりする脳の働きから得られる経験のことですが、これを利用した説明で、多くの受験生が合点がいったという顔をしてくれましたので、ここでも紹介してみましよう。

右の絵は「ひらめき脳」(茂木健一郎著・新潮新書)に紹介されているもので、「アハ！体験」ができる有名な絵です。

何の絵かお分かりになりますか。このまま見ているよりは、反時計回りに90度回転させた方が分かりやすいかもしれません。しばらく眺めていると「あ、あれね」と思えるのではないのでしょうか。

私が初めてこの絵を見たときには、得体の知れないエイリアンか悪魔のようにしか見え



なかったのですが、何分も悩んだ末に、ある瞬間、一挙に氷解してとてもすっきりしたものでした。(答はあとの文中で紹介します。)

実は、要約問題を解くときにも、この体験に似たひらめきが訪れると短時間に処理できます。一通り英文を読んだ後で全体を眺めるような意識を持つと、単語や文の羅列だったものが、「あ、こんなことが言いたいんだ」という姿に変わります。

全体を眺めながら、頭の中では、自分の持っている知識や思考プロセスが総動員されて解釈にかかり、やがて問題文全体が有意味につながってすっきりするのです。

この「全体を眺めるような意識」のことを脳科学ではメタ認知と言います。『自分の置かれている状況を外から客観的に見る能力』と前掲書には書かれています。世阿弥の言う「離見の見」というのも似ているかもしれません。能の演じ手が「心の眼」で、まるで観客席にいるように自分の舞う姿を眺めるのです。受験生も問題を解くことに埋没してしまうのではなく、少し距離を置いてみることで問題の主旨を冷静に受けとめ、考慮すべき条件の全体を把握できるように思います。

さて、先ほどの絵ですが、中央にあるブーツに注目すればお分かりいただけると思います。地図の一部として見えたのではないのでしょうか。それでは、これを何の絵だと答えましょうか。

この問いに、「イタリア」とか「南欧」と答えては必ずしも正しくはありません。全体をうまく捉えておらず、いわば「木を見て森を見ず」の状態になっているからです。やはり「地中海」という答が妥当ではないのでしょうか。

毎週読ませてもらっている生徒たちの答案にも、このように的をはずしているものが少なくありません。「木も見て森も見る」という気持ちで、1本1本の木(ひとつひとつの英文)を見るだけでなく、森全体がどんな形をしているかを上空から見るように、英文の全体像も見えなくてははいけません。「あ、イタリアが見えた！」と思った瞬間にあわてて「イタリア」という答えを出すのではなく、自分のやっていることをもう少し冷静にモニターできる必要があるのです。

「自分と距離を置ける」感覚がないと、対象がゆがんで見えてしまうこともあります。日本語の文でも、部分的に共感したり反発を覚えたりして読んでいると、全体の趣旨を見落とすという勝手に乱暴な読み方になることはないのでしょうか。

相手がしゃべっている最中に、「それは違う」とか「後で自分からはこんなことを話そう」などと勝手なことを考え始め、相手の話を聞き損ねることはないのでしょうか。

全体の趣旨を捉えられるようにする心掛けは、正しく思考するためにとっても大切なものだと思います。

「距離を置ける力」を持っていると、書き上げた答案を、まるで自分が採点者になったように見ることもできます。自分の答案が独り善がりになっていないか、思わぬ勘違いをしていないか、読む人に伝わりやすい書き方になっているか、などを瞬時に判断できます。

昨年の受験生の中には、メタ認知の話をした秋以降に急成長した生徒がいました。毎回の要約では誰よりも早く答案をまとめられるようになり、いつもほぼ満点でした。英語だけではなく

く、どの科目にも実に楽しく取り組めるようになったそうです。彼は最上位のクラスではなかったのですが、受験では、慶應医学部と東大理科二類に合格しました。

◆適切な時期に適切な学力を養う

今年の受験生にも「アハ！体験」の話をしました。しかし、それは10月に入るのを待ってからです。メタ認知を心掛ける前に、基礎学力（知識）を蓄えて思考の道筋を鍛えておく必要があるからです。

「イタリア半島とバルカン半島が突き出している、ユーラシア大陸とアフリカ大陸に挟まれたこの海は地中海だ」という基礎学力（知識）を持っていない場合、先ほどの絵で「アハ！体験」を味わうことはできません。

ここであえて述べておきたいことがあります。

「もっと早い時期にグノーブルに入塾してくれていたら……」と感ずる場面に、私たちはたびたび遭遇している、ということです。つまり、下の学年で身につけておくべき基礎学力（知識）が抜けてしまっている生徒に出会うことが多くなっているのです。

中には、中学受験（高校受験）を終えてから勉強を一休みしてしまった生徒がいます。気持ちは分からなくもないのですが、それでは目的を間違えてしまっています。スポーツで活躍することを夢見ている少年少女が、名門校入学を果たしたのでそのスポーツを一休みという話は聞きません。勉強を得意にしたいなら、その年齢でやっておくべきことをやるのは当然です。

学校でも真面目にやり、塾にも通っていたので本人も親御さんも安心していただけというケースもあります。定期考査の準備を勉強だと考えていると実力がつきませんし、詰め込んだ知識は融通が利きませんから、学年が上がると活躍できなくなっていくます。

大切なのは何をどのように勉強するかという中身とやり方、それと本人の能動性ですが、生徒たちの将来に責任を持った指導がなされてはいない教育機関は今でも多いように感じています。

私の担当科目である英語の場合、英単語集や構文集をほぼ暗記していて、文法問題でも高得点がとれる、それなのに英文の内容をほとんど読み取れず、不自然な英作文しか書けない生徒たちにたくさん出会ってきました。これでは、大学に合格することができたとしても、生徒たちの将来の活躍にはつながりません。

それでは、どのように英語の勉強を進めるべきでしょうか。また、国語や数学の勉強にはどのように取り組めば良いでしょうか。

ぜひ、この「保護者会資料」に収められた各科目のページをご覧ください。そして、本日の担当者からの話をお聞きください。

また、私も担当している英語については、拙著「英語 スピード読解力」も併せてお読みいただければ幸いです。



- ・全国有名書店にて、好評発売中。
PHP研究所 価格1,575円(税込)
- ・amazon.co.jp なら、送料無料です。
<http://www.amazon.co.jp/>
- ・グノーブル新宿本館受付でも販売中！
※本館受付では特別価格1,500円(税込)にて販売しています。